

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9番29号
自己評価作成日	平成24年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 11 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族との信頼関係を築く事に力を入れている。本人の能力や特技を把握し、生きがいのある生活が送れるよう日々取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護老人保健施設等を併設した複合施設の3階にある事業所で、3つのユニット間は自由に出入りができるようにしている。管理者と職員は理念に沿って、利用者の身体機能の維持向上に努めながら日々の暮らしを支援している。地域の情報を得て行事にも積極的に参加し、交流している。ほとんどの利用者は母体である医療機関をかかりつけ医としており、24時間対応が可能で利用者や家族にとって安心感がある。日常的に外気に触れる機会を多くするように努めて、個々の希望も聞き取り外出の計画に取入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	里の家
(ユニット名)	のぎく
記入者(管理者)	
氏名	丹下 実子
評価完了日	平成 24 年 10 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスの意義に基づいた運営は行っているが、地域に根ざした理念ではない。事業所独自の理念を開設当時の職員で作成し、朝の申し送り時に皆で復唱し、共有、実践に繋げている。	
			(外部評価) 開設当時に話し合っって作った理念を共有し、実践につなげている。新人職員には採用時に説明し、日々朝の申し送り時には全職員で唱和し、理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 定期的な地域の行事には参加し、利用者が地域との交流を持てる機会を設けているが、日常としては、挨拶程度である。	
			(外部評価) 日頃から、近くの公園に散歩に出かけて挨拶を交わすなど地域住民と交流できる機会を多く作っている。自治会に加入して地域情報を得て、祭りや文化祭等の行事に多く出かけるようにしている。小学生の訪問や砥部焼の絵付け、コーラス等のボランティア訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて、日常や特変の対応の報告をし理解を得ている。又、OTや管理栄養士の講義も取り入れ、地域の人々に向けて発信、活かされている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、利用者の現状や行事報告、施設での 問題点や外部評価での報告を行い、それに対する役員 さんの意見をいただき、改善策を話し合い、サービ ス向上に活かしている。	職員が会議に参加できる機会を多く作り理解を深めるとともに、意見交換の場を活性化させて、現場から出された意見がサービス向上に活かされることに期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は、近くにある同法人のグループホーム と合同で開催している。会議には利用者や家族、町内 会長、民生委員、市の職員、地域包括支援センターの 職員等が参加している。事業所の状況や活動内容を報 告したり、様々なテーマで意見交換を行っている。地 域の方から、役に立つ地域情報も得られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で市町村担当者より意見や情報を得てい るが、それ以外では現場スタッフは直接関わりを持っ ていない。	市や地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参加しており、事業所の実情を理解してもらい助言してもらっている。分からないことや困難事例等について、市の介護保険課に相談して連携を図っている。
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参加しており、事業所の実情を理解してもらい助言してもらっている。分からないことや困難事例等について、市の介護保険課に相談して連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会などで身体拘束における禁止行為を把握してい る。玄関も施錠しておらず、身体共に拘束しないケア に日々取り組んでおり、実践している。	身体拘束をしないケアについてマニュアルを作り、年1回は研修を行うなど全職員が正しく理解できるよう取り組んでいる。利用者の状態によっては転倒骨折防止のため夜間畳を敷いている。エレベーターはロックを掛けているが、ユニット間は自由に行き来できるようになっている。やむを得ず拘束する場合は家族の同意を求めている。
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについてマニュアルを作り、年1回は研修を行うなど全職員が正しく理解できるよう取り組んでいる。利用者の状態によっては転倒骨折防止のため夜間畳を敷いている。エレベーターはロックを掛けているが、ユニット間は自由に行き来できるようになっている。やむを得ず拘束する場合は家族の同意を求めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会において、事例を学んでいる。日常的に利用者への声掛け、又、トイレ・入浴時にボディチェックを行い、変化を見過ごさないように心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 知識としては多少あるも、直接的な支援をする対象者がいなく、今まで関わった事が一度もない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に訪問調査を行い、その場で家族、利用者さんと十分な話し合いや説明をし、理解や納得を図っている。又、入居後も同様に行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者やスタッフに都度言っていただき、運営に反映させている。又、意見箱を設置し、意見及び回答を掲示し、外部者も見れる環境が整っている。	
			(外部評価) 家族には面会時や連絡の際、また運営推進会議で意見や要望を聞いている。家族から出された意見等はユニット単位で話し合いをしている。意見箱を設置しており、出された意見には回答を掲示している。毎月ユニット便りと一緒に担当者が利用者の状況を書いて家族に知らせている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 運営に対し、代表や管理者からは十分に説明を受けているが、運営や方針についてスタッフサイドから意見や提案を表す事はない。</p> <p>(外部評価) 職員は月1回のユニット会で意見を出し合っている。出された意見は、管理者を通じて代表者にも伝わるようになっている。月1回は内部研修を行い、資格取得など重要な外部研修の参加費は事業所が負担し、職員の希望が反映されている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の勤務状況を管理者が把握され、有休の取得の勧めをいただいている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 外部研修に参加する機会を設けてもらっており、勉強会で参加した職員の報告等により共有したトレーニングが出来ている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) GH連絡会に参加させてもらう事によって、同業者との交流やネットワークが作れ、サービス向上に役立っている事がある。(意見を参考に出来る)</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 不安や訴えに耳を傾け、話し合っ改善に向けての努力を常に行っている。又、信頼関係を築く努力を日々行っていく。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期の面会時に時間をいただき、ご家族に希望、要望他、御本人についての情報をお伺いしている。同時に信頼関係を築けるよう努めている。又、希望等に対しては、実践し、結果報告を行い、話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状況を把握し、様々な観点から考慮し、対応するよう努めている。又、管理者に相談し、間違いのない対応を心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常の対応、会話の中で、人生の先輩としての体験や価値観を聞く事によって、学ぶべき事が多々ある。又、それに対し、話し合う事によって、関係保持が出来ている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に利用者の日常の報告をもとに、利用者の性格や気質などをアドバイス、又、御協力いただく事により、家族さんと共に支援でき、共に支援する事により、スタッフとの信頼関係も出来ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族さん以外の面会は殆どなく、個別に馴染みの場所にお連れしたり、面会の機会を設ける支援は出来ていない。 (外部評価) 利用者が希望する馴染みの店に買い物に出かけたり、家族と一緒に馴染みの場所へ出かけられるように支援している。ほとんどの利用者は事業所が新しい馴染みの場所となっており、施設内で行われる行事に参加して他の利用者との新しい関係も築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、職員の仲介のもと、孤立防止に努めている。しかし、各々の自我が強く、困難な事も多い。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 以前は退所されてもイベント等で来て下さる家族さんもおおり、声掛けをして付き合いを大切にするよう心がけていたが、最近はそのような機会がない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各々とちゃんと向き合い、希望や意向に耳を傾け添えるよう努めている。又、管理者や家族さんとも相談しながら、本人本位に検討し、実践出来ている。	
			(外部評価) 一人ひとりの思いや希望は、家族に聞いたり利用者との会話、行動等から把握している。新しく得た情報は、1日の流れの記録用紙や個人記録、申し送りノート等に記録し、口頭でも伝えるなどして、職員間で共有し日々のケアに活かしている。また、ユニット間でも情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サマリーやフェースシートをチェックしたり、御本人、御家族より情報収集し、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各々のペース、日々の声掛け、観察による心身状態のチェック、又、職員間の情報交換により、総合的に把握が出来ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 管理者、家族、出席可能な利用者、職員・皆で話し合い、計画を立てている。身体的に安定している利用者には、趣味のプランを取り入れ、精神的ケアに重点をおいている。各々に合ったプランが作成されていると思う。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望、職員の意見を反映させて介護計画を作成している。家族や医師、看護師、栄養士等が参加してカンファレンスも行っている。介護計画に沿ったケアチェック表を作成しており、1か月の実施状況が一目でわかるようになっている。利用者の状態に合わせて1～3か月、状態が安定すれば6か月で介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日のケース記録、生活記録に1日の様子やケア実践について記録に残し、又、連絡ノートにて職員間の連絡、報告、情報交換をし、統一を図りつつ、今後の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の希望、状況変化に応じてそれに合った支援をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行事の際にはボランティアの協力を得て、消防訓練は消防署の協力を得て行っている。安全で豊かな暮らしが出来るよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人及び、家族の希望を尊重し、それぞれのかかりつ け医の確保が出来ており、適切な医療が受けられてい る。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が母体の医療機関をかかりつけ医と しており、月2回の往診がある。また、事業所での利 用者の健康状態は毎日かかりつけ医に報告されてお り、医療面での安心感がある。皮膚科、歯科も往診に 来てくれている。他の専門医への受診は家族が同行し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 2Fナースに特変時には即、対応してもらう事が出来 ている。又、日常的に相談する事もでき、利用者が適 切な受診や処置を受けられるような体制が整っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には適切に看護師、管理者と共に病院関係者 との面談を行い、状況把握や早期退院に向けての面談を 行っている。事前に備えての関係づくりは管理者によ り行われている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族、医師、看護師、管理者、スタッフを含め、十分 に話し合い、全員で方針を共有しているが、地域の関 係者は関知していない。	
			(外部評価) 看取りの指針を作成し、入居時に利用者と家族に事業 所の方針を説明している。看取りを希望する家族が多 く、かかりつけ医に相談し指示を受けて、利用者の状 態に応じた適切な支援を職員全員で行なっている。看 取りの経験も多く、医療スタッフが中心になり勉強会 を行い資質向上を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練は行えていないが、マニュアルをもとに、一読、又、手順を決めて実行している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 昼夜、それぞれに設定し、消防訓練を行い、避難路の確保や場所の確認を行っている。地域の協力も運推会議にてお願いしている。 (外部評価) 施設全体で年2回、避難訓練を実施している。内1回は消防署の協力を得て実施しており、非常階段や避難用すべり台、はしご車を使った訓練も実施している。緊急連絡網の訓練も実施している。スプリンクラーは設置されているが、地震や水害に対する対策はまだ整備されていない。	運営推進会議において事業所が地域のためにできる災害時の協力について発信するなど、地域との協力体制が築かれるような取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシー保護に努め、声掛け、対応等、十分に注意している。個人情報の取り扱いには細心の注意をし、厳重に保管している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を敬い、尊厳を大切に考えて支援している。居室の中が見えないように入口に暖簾をかけたり、排泄時には必ずトイレの戸は閉め、入浴時は1対1で対応する等、プライバシーに配慮した対応をしている。職員は誇りを損ねないよう親しみを込めた自然な声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 朝の更衣時には、服を選んでいただいたり、余暇の過ごし方も出来るだけ、選択していただく等、声掛け、問い掛けにより、自己決定していただくよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員サイドの都合を優先はしていないが、共同生活をするにあたり、ある程度の決まりは守っていただいている。その中で、なるべく各々の希望に添えられるよう、支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理容、美容は、本人の希望通りに、カット・カラー・パーマをしている。又、女性はイベントの時には化粧をしておしゃれしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 限られた利用者ではあるが、簡単な下ごしらえや食事準備、片付けを一緒にし、その人の持った力を活かしている。	
			(外部評価) 食事は、畑で採れた新鮮な野菜を使ってユニットごとに作っている。食事が利用者の楽しみになるように、おやつを一緒に手作りするなど工夫して支援している。利用者は下ごしらえや食器拭き等できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分チェックは都度行っており、各々の身体状況、必要摂取量を把握した上で、必要に応じた声掛け、介助を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個人で出来る、出来ない、チェックが必要など、状況に応じたケアを行っている。義歯の人は職員により洗浄をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 各々の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行う事により、オムツ減らしが出来ている。誘導によって、オムツ減らしだけでなく、尿意、便意のない人でもトイレでの排泄が可能になる事も多くある。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンや習慣を把握して、昼間はなるべくトイレ誘導をして、オムツを減らす支援を行っている。紙パンツから布パンツになった利用者もいる。夜間、眠剤を服用している利用者も個々の状態に応じた排泄支援をしている。必要があれば、かかりつけ医の指示を受け対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取や運動の声掛け、生活の中に取り入れる声掛けをし、又、センナ茶も併せ、予防、解消に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日や順番があり、その時々々の希望やタイミングに合わせる事は難しいが、個人のペースや希望に応じた入浴が持てるよう支援している。	
			(外部評価) 2日に1回、午前中の中入浴を基本として支援している。利用者から希望があれば毎日の入浴も可能である。リフト浴等も整備され、利用者の状態に合わせて使用している。入浴が苦手な利用者にも無理強いせず、その日の気分や体調に合わせて時間を変えたり声かけを工夫するなど、気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各々の生活パターンやその時々々の希望に応じて居室で休息が出来るよう対応している。又、居室の空調を心がけ、安眠できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方都度、説明書を読み、薬名、効能、効果について、把握、チェックしているが、全て記憶は出来ていない。誤薬はなく、確実に服用していただいております、変化の確認も出来ています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食器拭き、おしぼりたたみ、洗濯たたみ、日曜大工、食事準備など、日常の中で活力のある役割を持っていただいております。又、レクレーションにも力を入れ、楽しみを持っていただくよう支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望にそっての外出は出来ていない。しかし、家族によっては、協力、同行のもと、御本人の希望に応じた外出、外泊が出来ています。	
			(外部評価) 施設は敷地を含めて十分な広さがあり、散歩などで日常的な外気浴ができる。利用者の希望で、近隣の公園やコンビニ、喫茶店に出かけたりドライブを楽しんだりしている。家族と出かける利用者もいる。全体の年間行事や各ユニット毎の計画に、外出の機会を多く作るように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 移動パンや外食時などには、家族からの預かり金より各自に支払いをしていただいております。又、所持保管の可能な利用者は所有し、必要に応じて使用されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族さんに手紙を書く勧めをしたり、T e lを希望される場合には、職員が時間帯を配慮したり取り次ぎを行い、問題なく支援できている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ユニット玄関やフロア内、居室入り口には季節に合わせた飾り付けをしたり、空調にも気を付け、居心地よく過ごせる環境作りをしている。光はブラインドで調節し、空気入れ替えも行っている。</p> <p>(外部評価) 居間や廊下が広く、車いすの利用者もゆったりと生活できる。各ユニットには懐かしい古い家具がさりげなく置かれて、落ち着いた雰囲気がある。壁には季節の物や利用者の写真等が飾られて、楽しく過ごせるようにしている。台所からは居間全体を見渡せて、職員が利用者を見守りやすくなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや談話コーナー等、思い思いに過ごせる空間はあるが、殆ど居室もしくはフロアテーブルの定位で過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ベッドとタンス以外は各々の好みのもを設置しており、本人の慣れたものにより居心地の良い居室となっている。</p> <p>(外部評価) 居室はゆったりとした広さがあり、ベッドと整理ダンスが備え付けられている。自宅から利用者の使い慣れた家具や好みの小物、写真等が自由に持ち込まれて、家庭的な雰囲気がある。利用者が落ち着いて生活できる空間づくりがなされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) バリアフリー、手すりが建物全てにあり、残存機能を保つ為、安全且つ、自立した生活を送っていただいている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9番29号
自己評価作成日	平成24年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 11 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>終末期ケアの必要な方が2名いらっしゃるが、医療、家族との密な連携を取ることで、家族が安心して、本人が不安なく安楽な生活が維持できるよう、声掛け、見守りを行っている。またオムツ減らしも頑張っており、家族の経済的負担も軽減できるよう支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>介護老人保健施設等を併設した複合施設の3階にある事業所で、3つのユニット間は自由に出入りができるようにしている。管理者と職員は理念に沿って、利用者の身体機能の維持向上に努めながら日々の暮らしを支援している。地域の情報を得て行事にも積極的に参加し、交流している。ほとんどの利用者は母体である医療機関をかかりつけ医としており、24時間対応が可能で利用者や家族にとって安心感がある。日常的に外気に触れる機会を多くするように努めて、個々の希望も聞き取り外出の計画に取入れている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 里の家

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)
氏名 松田 岳人

評価完了日 平成24年10月10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念、指針の復唱を週1回、申し送り時に行い、再認識し、日々のケアに活かしている。	
			(外部評価) 開設当時に話し合っって作った理念を共有し、実践につなげている。新人職員には採用時に説明し、日々朝の申し送り時には全職員で唱和し、理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運推会議や、地域の祭り、みこし等参加し、交流を図っている。	
			(外部評価) 日頃から、近くの公園に散歩に出かけて挨拶を交わすなど地域住民と交流できる機会を多く作っている。自治会に加入して地域情報を得て、祭りや文化祭等の行事に多く出かけるようにしている。小学生の訪問や砥部焼の絵付け、コーラス等のボランティア訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や地域の行事を通して交流を図り、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 現状を伝え、御家族の意見や民生委員、町内会の方々の質問・意見を拝聴している。	職員が会議に参加できる機会を多く作り理解を深めるとともに、意見交換の場を活性化させて、現場から出された意見がサービス向上に活かされることに期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は、近くにある同法人のグループホームと合同で開催している。会議には利用者や家族、町内会長、民生委員、市の職員、地域包括支援センターの職員等が参加している。事業所の状況や活動内容を報告したり、様々なテーマで意見交換を行っている。地域の方から、役に立つ地域情報も得られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運推会議で包括や介護保険課の方と連携をとっている。	市や地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参加しており、事業所の実情を理解してもらい助言してもらっている。分からないことや困難事例等について、市の介護保険課に相談して連携を図っている。
			(外部評価)	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 3Fにあり、大型の総合施設のため、階段室やエレベーターにはロックがかかっている。3F内は自由に移動できる。	身体拘束をしないケアについてマニュアルを作り、年1回は研修を行うなど全職員が正しく理解するよう取り組んでいる。利用者の状態によっては転倒骨折防止のため夜間畳を敷いている。エレベーターはロックを掛けているが、ユニット間は自由に行き来できるようになっている。やむを得ず拘束する場合は家族の同意を求めている。
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会にて学ぶ機会あり、毎年学んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 施設の勉強会で学ぶ機会があったが、今まで該当する方が無い為、支援した事はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 本人様や家族様の要望をしっかりと聞き取り、不安や疑問に十分な説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) それぞれ、面会の時に指摘して下さる方もおられるが、それ以外に3Fに苦情BOXを設置し、意見を運営に反映させている。	
			(外部評価) 家族には面会時や連絡の際、また運営推進会議で意見や要望を聞いている。家族から出された意見等はユニット単位で話し合いをしている。意見箱を設置しており、出された意見には回答を掲示している。毎月ユニット便りと一緒に担当者が利用者の状況を書いて家族に知らせている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会以外でも、その都度機会を設けて下さり、開いてもらっている。	
			(外部評価) 職員は月1回のユニット会で意見を出し合っている。出された意見は、管理者を通じて代表者にも伝わるようになっている。月1回は内部研修を行い、資格取得など重要な外部研修の参加費は事業所が負担し、職員の希望が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得の勉強会や施設内勉強会等をしてもらう事で向上心を持って働いている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) いろいろな課題で勉強会を開いて下さっています。勉強にもなるし、気付く事も多い。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との勉強会や相互訪問等は毎年行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時、スタッフ全体で声掛け行い、訴えに対して、より意識的に本人の安心を引きだすよう行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 職員は家族様の不安や要望をいつでも聞く事ができ、他の職員と共有している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 理容開始の前に本人、家族の話をしっかり聞き取り、それに応じて必要な支援が出来る様努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「家庭で過ごされている」という事を頭に置き、台所での手伝いや洗濯物をたたんでいただいたりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様の身体の変化など、かならず報告しており、月1回お便りも出し、近況報告しています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会等はいつでも自由にしてあるが、来られる方は少ない。 (外部評価) 利用者が希望する馴染みの店に買い物に出かけたり、家族と一緒に馴染みの場所へ出かけられるように支援している。ほとんどの利用者は事業所が新しい馴染みの場所となっており、施設内で行われる行事に参加して他の利用者との新しい関係も築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い方と隣同士にする。席を一定の時期に配置每かえる等、工夫し、皆が会話出来る様、努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院による契約終了時は家族や、HPの担当者との連携を取りながら支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 「家に帰りたい」から「美味しいもんが食べたい」に関するまで要望に関して、拝聴して可能な限り支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの思いや希望は、家族に聞いたり利用者との会話、行動等から把握している。新しく得た情報は、1日の流れの記録用紙や個人記録、申し送りノート等に記録し、口頭でも伝えるなどして、職員間で共有し日々のケアに活かしている。また、ユニット間でも情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時のアセスメントシートに目を通し、把握。そして実際に接して修正を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ADLの確認、そして本人本位の暮らしの手伝いもしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスを行い、本人様、家族様の意見をお聞きし、介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望、職員の意見を反映させて介護計画を作成している。家族や医師、看護師、栄養士等が参加してカンファレンスも行っている。介護計画に沿ったケアチェック表を作成しており、1か月の実施状況が一目でわかるようになっている。利用者の状態に合わせて1～3か月、状態が安定すれば6か月で介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) プランの実践を記録に残し、スタッフ間で情報を共有し、見直しに活力している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ユニット会での話し合いや、カンファレンスでその時に合ったサービスを心がけている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事に参加したり、避難訓練を一緒に行って安全な暮らしを楽しむことができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族様の希望の病院にて診療を受けてる。主治 医も希望に添っている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が母体の医療機関をかかりつけ医と しており、月2回の往診がある。また、事業所での利 用者の健康状態は毎日かかりつけ医に報告されてお り、医療面での安心感がある。皮膚科、歯科も往診に 来てくれている。他の専門医への受診は家族が同行し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 24時間いつでも異常があった場合は、直ちに看護師に 報告し、指示をもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院の関係者や家族様を通して情報を得たり、退院に 向けても安心して治療できるよう、医療機関との関係 作りは行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した段階で本人、家族と話し合い、事業所で出 来る事を十分に説明しながら、医療ともしっかりチ ームを作り支援している。	
			(外部評価) 看取りの指針を作成し、入居時に利用者と家族に事業 所の方針を説明している。看取りを希望する家族が多 く、かかりつけ医に相談し指示を受けて、利用者の状 態に応じた適切な支援を職員全員で行なっている。看 取りの経験も多く、医療スタッフが中心になり勉強会 を行い資質向上を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変が見当のつく方の場合、職員全体で確認し、各自メモしている。急変時も、まずNS連絡ということは徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地震は不明な事が多い。消防訓練、避難訓練を定期的に行っている。 (外部評価) 施設全体で年2回、避難訓練を実施している。内1回は消防署の協力を得て実施しており、非常階段や避難用すべり台、はしご車を使った訓練も実施している。緊急連絡網の訓練も実施している。スプリンクラーは設置されているが、地震や水害に対する対策はまだ整備されていない。	運営推進会議において事業所が地域のためにできる災害時の協力について発信するなど、地域との協力体制が築かれるような取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) やさしい言葉かけを心がけている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を敬い、尊厳を大切に考えて支援している。居室の中が見えないように入口に暖簾をかけたり、排泄時には必ずトイレの戸は閉め、入浴時は1対1で対応する等、プライバシーに配慮した対応をしている。職員は誇りを損ねないよう親しみを込めた自然な声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望に少しでも近いものになる様、努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 内容によっては職員の決まりに合わず事があるが、個人を尊重し、出来るだけ希望に合わせている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出や行事の時など特に服装に注意している。理容、美容も施設内で行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食器拭き、ゴボウのさがき、もやしの根切り等を手伝っていただいている。	
			(外部評価) 食事は、畑で採れた新鮮な野菜を使ってユニットごとに作っている。食事が利用者の楽しみになるように、おやつと一緒に手作りするなど工夫して支援している。利用者は下ごしらえや食器拭き等できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その方に合った食事形態を支援している。水分量をチェックし、少ない方には声掛けや機会を増やし提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケア、毎夜の洗浄、消毒行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツ減らし、パット減らしに重点を置き、一人ひとりの排泄の間隔を把握して声掛けや、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンや習慣を把握して、昼間はなるべくトイレ誘導をして、オムツを減らす支援を行っている。紙パンツから布パンツになった利用者もいる。夜間、眠剤を服用している利用者も個々の状態に応じた排泄支援をしている。必要があれば、かかりつけ医の指示を受け対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘が続く時は、腹部マッサージをしたり、運動への働きかけしたり、下剤を服用して頂くなど個々に応じた予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 決まった時間帯で対応している。曜日は決めてなく、前日、入浴されなかった方に声かけしている。	
			(外部評価) 2日に1回、午前中の中入浴を基本として支援している。利用者から希望があれば毎日の入浴も可能である。リフト浴等も整備され、利用者の状態に合わせて使用している。入浴が苦手な利用者にも無理強いをせず、その日の気分や体調に合わせて時間を変えたり声かけを工夫するなど、気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じて、午後臥床して頂いている方もおられる。就寝時間はここによって違っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の一覧表、処方箋を確認し、把握に努めており、家族にも面会時、特に転倒のリスクの副作用のある薬についてはよく説明している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーション、お手伝い、昔されていた事など声掛けしているが参加につながる事が難しい時が多い。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的には行えていない。家族様といつでも外出できるため頻回に外出されている方もある。	
			(外部評価) 施設は敷地を含めて十分な広さがあり、散歩などで日常的な外気浴ができる。利用者の希望で、近隣の公園やコンビニ、喫茶店に出かけたりドライブを楽しんだりしている。家族と出かける利用者もいる。全体の年間行事や各ユニット毎の計画に、外出の機会を多く作るように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は職員が行っているが、希望時は出金し、ご本人と買いに行く事ある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に添って電話をかける、年賀状も自筆で書いて出して頂くなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 浴室、トイレは分かりやすく表示している。壁には飾り付けや写真を貼っている。季節の飾り付けをしている。（おひな様、クリスマスツリー、七夕祭り等）</p> <p>(外部評価) 居間や廊下が広く、車いすの利用者もゆったりと生活できる。各ユニットには懐かしい古い家具がさりげなく置かれて、落ち着いた雰囲気がある。壁には季節の物や利用者の写真等が飾られて、楽しく過ごせるようにしている。台所からは居間全体を見渡せて、職員が利用者を見守りやすくなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テーブルには自分の席が決まっている。フロアで殆ど1日を過ごされ、コミュニケーションの場になっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご本人や家族が持って来られたものを、使用したり飾り付けしたりして居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室はゆったりとした広さがあり、ベッドと整理ダンスが備え付けられている。自宅から利用者の使い慣れた家具や好みの小物、写真等が自由に持ち込まれて、家庭的な雰囲気がある。利用者が落ち着いて生活できる空間づくりがなされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ADLを生かして自分でやってもらっている。IADLも減退しない様注意している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9番29号
自己評価作成日	平成24年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 11 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2Fには老健があり看護師が、24時間体制でいるため医療との連携も早く対応できている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護老人保健施設等を併設した複合施設の3階にある事業所で、3つのユニット間は自由に入出りができるようにしている。管理者と職員は理念に沿って、利用者の身体機能の維持向上に努めながら日々の暮らしを支援している。地域の情報を得て行事にも積極的に参加し、交流している。ほとんどの利用者は母体である医療機関をかかりつけ医としており、24時間対応が可能で利用者や家族にとって安心感がある。日常的に外気に触れる機会を多くするように努めて、個々の希望も聞き取り外出の計画に取入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	里の家
(ユニット名)	たんぽぽ
記入者(管理者)	
氏名	山岡 和子
評価完了日	平成 24 年 10 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 代表者、管理者、職員が統一した方向性で利用者のケアが出来るよう毎朝、理念を復唱し取り組んでいる。	
			(外部評価) 開設当時に話し合っって作った理念を共有し、実践につなげている。新人職員には採用時に説明し、日々朝の申し送り時には全職員で唱和し、理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の夏祭り、秋祭りへの参加や運営推進会議を通して地域の方との交流を深めている。	
			(外部評価) 日頃から、近くの公園に散歩に出かけて挨拶を交わすなど地域住民と交流できる機会を多く作っている。自治会に加入して地域情報を得て、祭りや文化祭等の行事に多く出かけるようにしている。小学生の訪問や砥部焼の絵付け、コーラス等のボランティア訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などで行事の声掛けを行い、交流をしている。交流の中で認知症の方の理解をしていただけるように思える。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 施設の職員、利用者の家族、地域の方々など声を掛 け、定期的集まり、話し合いをし意見交換を行って いる。	職員が会議に参加できる機会を多く作り理解を深める とともに、意見交換の場を活性化させて、現場から出 された意見がサービス向上に活かされることに期待し たい。
			(外部評価) 運営推進会議は、近くにある同法人のグループホーム と合同で開催している。会議には利用者や家族、町内 会長、民生委員、市の職員、地域包括支援センターの 職員等が参加している。事業所の状況や活動内容を報 告したり、様々なテーマで意見交換を行っている。地 域の方から、役に立つ地域情報も得られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、状況を報告してい る。困難事例の場合は窓口まで行き、相談・支援を仰 いでいる。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参 加しており、事業所の実情を理解してもらい助言して もらっている。分からないことや困難事例等につい て、市の介護保険課に相談して連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日々、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。生命 に危険が及ぶ場合においては御家族の了承を得て、同 意見書をもっているが、状態を見ながら拘束解除に 努めている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについてマニュアルを作り、年 1回は研修を行うなど全職員が正しく理解するよう取 組んでいる。利用者の状態によっては転倒骨折防止 のため夜間畳を敷いている。エレベーターはロックを 掛けているが、ユニット間は自由に行き来できるよう になっている。やむを得ず拘束する場合は家族の同意 を求めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の変化に少しでも早く気付けるよう内出血やアザ、はくりなどに気を付け、又、強い口調、命令後には気を付け、思いやりのある優しい声掛けを心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会や研修で学ぶ機会があり、多少理解はしているが、今までも制度を利用する対象者が居ないため支援したことはない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際、説明し、不安や問題点を聞き話し合いをした上で理解、納得して頂けるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時やカンファレンスの時に意見、要望をお聞きし、話し合い、毎月のユニット会で意見交換をしている。	
			(外部評価) 家族には面会時や連絡の際、また運営推進会議で意見や要望を聞いている。家族から出された意見等はユニット単位で話し合いをしている。意見箱を設置しており、出された意見には回答を掲示している。毎月ユニット便りと一緒に担当者が利用者の状況を書いて家族に知らせている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のユニット会や毎朝の申し送り等にて問題点を話し合っている。	
			(外部評価) 職員は月1回のユニット会で意見を出し合っている。出された意見は、管理者を通じて代表者にも伝わるようになっている。月1回は内部研修を行い、資格取得など重要な外部研修の参加費は事業所が負担し、職員の希望が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各自が向上心を持ち資格取得し、又、職員が働きやすくなるよう増員を考えながら職場環境に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月1回勉強会の参加や他の研修の案内があるが、出席出来る方は参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同地域のグループホーム連絡会を作っており、施設に来てもらったり同業者との交流に深めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、リーダーが訪問して本人と直接会い、不安な事など話を聞き、安心して入居していただけるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、リーダーが家族の不安や困っている事を聞く機会を作り、初期の段階で信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の意思を尊重し、その時、その人に合った対応を行っていきけるよう皆で話し合い対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人と時間をかけて関わっていき、支えあっているような関係を築けるように努めている。人生の先輩として尊重し、教えて頂くことも多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員と家族が共に支えていけるよう協力体制はとれている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力をえながら本人の馴染みの人や本人の気持ちを大切に連絡等行い、面会に来ていただいている。 (外部評価) 利用者が希望する馴染みの店に買い物に出かけたり、家族と一緒に馴染みの場所へ出かけられるように支援している。ほとんどの利用者は事業所が新しい馴染みの場所となっており、施設内で行われる行事に参加して他の利用者との新しい関係も築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士コミュニケーションを取りやすいよう職員が中に入り、一緒に過ごせる時間を作り支え合える支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院などで契約が終了しても、病院との連携をしっかりと取り取り、本人・家族が安心して入院出来るように支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で本人の要望等、色々な気持ちをきけるよう職員は声掛けコミュニケーションをとりその人に合ったケアが出来るよう心がけている。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は、家族に聞いたり利用者との会話、行動等から把握している。新しく得た情報は、1日の流れの記録用紙や個人記録、申し送りノート等に記録し、口頭でも伝えるなどして、職員間で共有し日々のケアに活かしている。また、ユニット間でも情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フエースシート等でこれまでどの様に暮らして来られたのか、何をされいたかを把握。本人や家族からも話を聞き、その人らしく、暮らして行けるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人の表情、言葉等職員一人ひとりが観察し、話を聞く等、心身状態に気を付け把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスを行い、本人や家族の希望、要望を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望、職員の意見を反映させて介護計画を作成している。家族や医師、看護師、栄養士等が参加してカンファレンスも行っている。介護計画に沿ったケアチェック表を作成しており、1か月の実施状況が一目でわかるようになっている。利用者の状態に合わせて1～3か月、状態が安定すれば6か月で介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の言葉でその時々気持ちをそのまま記入し、職員同士の申し送りや話し合い等にて、情報の共有をし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ボランティアの協力により外出支援や余暇活動の充実を図る事が出来る柔軟な支援や、サービスの多機能化に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生員、ボランティアの協力のもと、安全な暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医療機関は入居者、家族の希望で決めており、自由に 希望の受診が出来るよう支援している。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が母体の医療機関をかかりつけ医と しており、月2回の往診がある。また、事業所での利 用者の健康状態は毎日かかりつけ医に報告されてお り、医療面での安心感がある。皮膚科、歯科も往診に 来てくれている。他の専門医への受診は家族が同行し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 同建物内の老人保健施設に日中夜間看護師がおり、体 調の変化等何かあれば報告して指示をもらい対応して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時はサマリーを書いて情報交換を行っている。退 院の目途がいたら医療機関と話し合いの場を持ち関 係作りを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と 共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期には家族や医療と話し合い、希望に添ったチ ームケアを心がけている。	
			(外部評価) 看取りの指針を作成し、入居時に利用者と家族に事業 所の方針を説明している。看取りを希望する家族が多 く、かかりつけ医に相談し指示を受けて、利用者の状 態に応じた適切な支援を職員全員で行なっている。看 取りの経験も多く、医療スタッフが中心になり勉強会 を行い資質向上を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防訓練では応急手当や初期対応の訓練も行ったが、今後も定期的な訓練を行うよう計画している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練は年2回実施しており、訓練に参加し避難できる方法を消防署・地域の方と協力、連携しながら築いている。緊急連絡網等もある。 (外部評価) 施設全体で年2回、避難訓練を実施している。内1回は消防署の協力を得て実施しており、非常階段や避難用すべり台、はしご車を使った訓練も実施している。緊急連絡網の訓練も実施している。スプリンクラーは設置されているが、地震や水害に対する対策はまだ整備されていない。	運営推進会議において事業所が地域のためにできる災害時の協力について発信するなど、地域との協力体制が築かれるような取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 理念にもあるように一人ひとりの思いや、優しい声掛け、思いやりを忘れないように対応している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を敬い、尊厳を大切に考えて支援している。居室の中が見えないように入口に暖簾をかけたり、排泄時には必ずトイレの戸は閉め、入浴時は1対1で対応する等、プライバシーに配慮した対応をしている。職員は誇りを損ねないよう親しみを込めた自然な声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が希望や思いを言いやすいように支援し、入浴、行事など自己決定できるよう働きかけます。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの健康状態、訴えにより、本人の希望に添って支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理容は毎月1回、美容は2ヶ月に1回訪問して頂いており、カット・パーマ・毛染めも希望に応じている。服も本人の気に入ったものを着ていただき、おしゃれを楽しまれるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の準備、もやしの根切りや、ニンジンの皮むき、食器拭きなど職員と一緒にする等出来ている。	
			(外部評価) 食事は、畑で採れた新鮮な野菜を使ってユニットごとに作っている。食事が利用者の楽しみになるように、おやつと一緒に手作りするなど工夫して支援している。利用者は下ごしらえや食器拭き等できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量、水分量まめにチェックを行い、飲み込みが難しい方には少しトロミをつけるなど一人ひとりの状態に応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアに気を付け、自分で出来るよう職員が見守りをしながら、又、入れ歯の方は、夜間はポリデントにつけるなどケアに気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 声掛け見守り行い、誘導、介助を行っている。その人に合った習慣を大切に支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンや習慣を把握して、昼間はなるべくトイレ誘導をして、オムツを減らす支援を行っている。紙パンツから布パンツになった利用者もいる。夜間、眠剤を服用している利用者も個々の状態に応じた排泄支援をしている。必要があれば、かかりつけ医の指示を受け対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの排便チェックを行い、食事の工夫や、運動の声掛けしたり、医師に相談し便薬を処方していただくなど排便コントロールをしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週に3回、午前に入浴して貰っているが、本人の体調や希望に応じて中止するなど、出来る限り個人に合わせた対応を行っている、	
			(外部評価) 2日に1回、午前中の中入浴を基本として支援している。利用者から希望があれば毎日の入浴も可能である。リフト浴等も整備され、利用者の状態に合わせて使用している。入浴が苦手な利用者にも無理強ひせず、その日の気分や体調に合わせて時間を変えたり声かけを工夫するなど、気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 食後等声掛けを行い、一人ひとりの状況に応じ休んでいただいたり、夜間は眠たくなるまでTVを見られたり一人ひとりのリズムで安心して眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの体調に応じて医療と確認を取りながら理解している。飲み忘れ、間違いが無いよう確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お手伝いをさせていただいたり、紙芝居や風船バレーをしながら気分転換の支援をしている。声掛けにて食器を拭いてもらったり、洗濯物たたみ等、本人が出来る事はしてもらっている。喫煙される方もおられ、気分転換の支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力をえながら連れ出させていただいたり、買い物、お花見、ドライブ等の支援している。	
			(外部評価) 施設は敷地を含めて十分な広さがあり、散歩などで日常的な外気浴ができる。利用者の希望で、近隣の公園やコンビニ、喫茶店に出かけたりドライブを楽しんだりしている。家族と出かける利用者もいる。全体の年間行事や各ユニット毎の計画に、外出の機会を多く作るように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理はスタッフがやっている。必要な物は買い物代行で買い、希望があれば、近所のコンビニへスタッフと行かれ、自分で使えるような支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 全員ではないが、電話を掛けたり、手紙、はがきを出したい時は希望に添うよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 今までの行事の写真を飾ったり、お花を飾ったり、利用者に季節感を感じて居心地良く過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居間や廊下が広く、車いすの利用者もゆったりと生活できる。各ユニットには懐かしい古い家具がさりげなく置かれて、落ち着いた雰囲気がある。壁には季節の物や利用者の写真等が飾られて、楽しく過ごせるようにしている。台所からは居間全体を見渡せて、職員が利用者を見守りやすくなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) それぞれの落ち着かれる場所、ソファに座ってTV見たり、音楽を流し童謡を一緒に歌ったりされ過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者の気持ちを大切に、使いなれた物や好みを活かし、その人らしい空間作りをしている。</p> <p>(外部評価) 居室はゆったりとした広さがあり、ベッドと整理ダンスが備え付けられている。自宅から利用者の使い慣れた家具や好みの小物、写真等が自由に持ち込まれて、家庭的な雰囲気がある。利用者が落ち着いて生活できる空間づくりがなされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 施設内は広く、車椅子の移動にも十分なスペースがあり、歩行訓練も行えている。トイレ、風呂場、廊下等には手すりもあり、転倒予防の為の環境作りがしてある。</p>	